

**This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-234455

(P2000-234455A)

(43) 公開日 平成12年8月29日 (2000.8.29)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

F I

テコード^{*} (参考)

E 0 4 H 13/00

E 0 4 H 13/00

C

A 4 7 G 33/00

A 4 7 G 33/00

L

審査請求 有 請求項の数 1 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号

特願平11-38915

(22) 出願日

平成11年2月17日 (1999.2.17)

(71) 出願人 599022384

有限会社杉本工業所

富山県中新川郡上市町正印7番地の1

(72) 発明者 杉本 俊雄

富山県中新川郡上市町正印7番地の1 有

限会社杉本工業所内

(74) 代理人 100090206

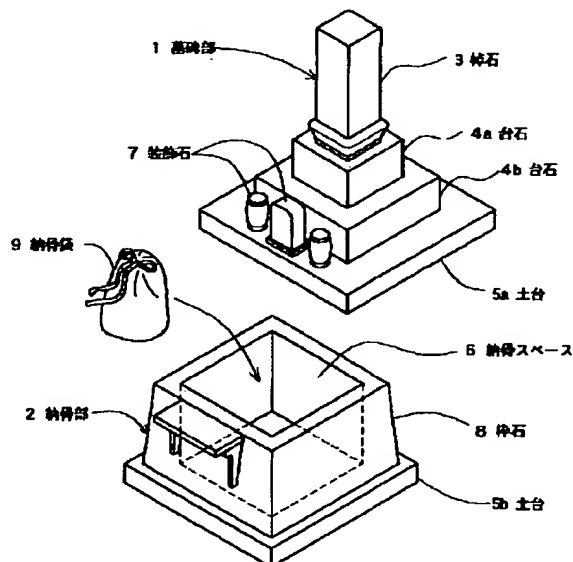
弁理士 宮田 信道

(54) 【発明の名称】 お墓型納骨器具

(57) 【要約】

【課題】 現在のお墓が抱えている様々な問題の打開策として、郊外の墓地に立派なお墓を建てるのではなく、それぞれの家族が自身の身近でお骨を長期に亘って大切に保管することのできるお墓型の納骨器具を提供し、お墓の新しいスタイルを提案することを目的とする。

【解決手段】 棹石3、台石4a、4b等からなる墓碑部1と、内部をくりぬいて分骨したお骨を収納できる納骨スペース6を形成した納骨部2からなり、該墓碑部1、納骨部2はそれぞれ加工した石材を接着剤によって一体化したものであって、その重量は大人が1人で持ち運べることを限度とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 棹石(3)、台石(4a、4b)等からなる墓碑部(1)と、内部をくりぬいて分骨したお骨を収納できる納骨スペース(6)を形成した納骨部(2)からなり、該墓碑部(1)、納骨部(2)はそれぞれ加工した石材を接着剤によって一体化したものであって、その重量は大人が1人で持ち運べることを限度とする小型化されたお墓型納骨器具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は自分の家の中や庭に設置するお墓の形をした納骨器具に関する。

【0002】

【従来の技術】近年、核家族の増加や家制度が曖昧になってくるにつれてお墓に対する考えも変わりつつあるようである。現在4人に1人は自分が入るお墓を持っていないとも言われており、特に都市部においてお墓不足は深刻であって、お墓を建てるにはそれ相当の出費を覚悟しなければならない。お墓の値段というのは千差万別であり、相場を把握するのも困難なものである。必要な費用はお墓を建てるための土地代とお墓自体の値段に分けられる。お寺の境内にお墓を建てるには永代使用料という名目で、その額は寺によって異なるが少なくとも100万円前後支払って、寺から僅かばかりの土地を永久的に借り受ける権利を取得しなければならない。この上さらにお墓自体の購入費用として100～200万円のお金が必要であり、両者の金額を合わせると200万円は下らないと言われている。残される家族に迷惑をかけたくないという思いから、お墓を建てずに永代供養墓やロッカー式の個人墓、知らない人同士で大勢で入る合祀墓、さらには散骨を選ぶ人も少なくない。

【0003】また一方では、掛け替えのない肉親や連れ合いを不幸にも亡くし、毎日でもお墓にお参りしたいのに、お墓が遠く離れた場所にあるために年に一度のお盆の墓参りさえままならず、なんとか自分のすぐ側にお墓を持ちたいと切望している人もいる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】本発明はこうした現在のお墓が抱えている様々な問題の打開策として、郊外の墓地に立派なお墓を建てるのではなく、それぞれの家族が自身の身近でお骨を長期に亘って大切に保管することのできるお墓型の納骨器具を提供し、お墓の新しいスタイルを提案することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記の課題を達成するための手段として、本発明のお墓型納骨器具は、棹石、台石等からなる墓碑部と、内部をくりぬいて分骨したお骨を収納できる納骨スペースを形成した納骨部からなり、該墓碑部、納骨部はそれぞれ加工した石材を接着剤によって一体化したものであって、その重量は墓碑部、納骨

部ともに普通の大人が1人で案に持ち運ぶことが可能ないせいで20kg程度を限度とする。

【0006】大きさは全高が30cmに満たない1人用のものや、家族全員が入ることを想定した60cm前後のものとする 것도できる。このように形成されたお墓型納骨器具は、小型であるためにそれぞれの家庭で仏間や床の間、庭先などに自由に設置することができるので墓地を確保する必要が無く、使用する石材も少なく済むことから、これまでの1/10にも満たない費用でお墓を持つことがことができる。

【0007】また小型といっても材質は石材とし、従来のお墓のイメージをそのまま残す形で小型化しながらある程度の重厚さを維持することによって、故人のお骨の一部ではあるが大切に守り、残された家族が毎日でもこのお墓に手を合わせて故人の冥福を祈ることができる。

【0008】

【発明の実施の形態】以下に本発明の実施形態を図面に基いて説明する。図1は本発明によるお墓型納骨器具の代表的な形態を表すものである。本発明のお墓型納骨器具は御影石等の石材を素材とし、別々に切り出して彫刻、表面仕上げ等を経て得られる各部品を接着剤で固着して形成するものであるが、墓碑部1と納骨部2の二つに分けられている。

【0009】墓碑部1は家名等を彫りこんだ四角柱型の棹石3と、これを載せる二段の台石4a、4bと土台5a、好みに応じて花瓶等を模した装飾石7とから構成され、これらは接着剤によって一体化されている。納骨部2は板状の土台5bに略直方体型の石材の内部をくりぬいて筒状となった梓石8を固着して、上方が開いた納骨スペース6が形成してあり、ここに分骨したお骨を巾着型の納骨袋9等に入れたうえで収納する。この納骨部2の上に墓碑部1が載せられて、お骨が密閉状態で保存される。

【0010】このお墓型納骨器具の外形寸法は墓碑部の高さが30cm前後、納骨部の高さが15cm前後であり両者を合わせると45cmとなり、底面は30cm弱の正方形であり、自分の家の仏間の隅や床の間、あるいは庭先等に自由に設置することができる。この程度の大きさだと重量は墓碑部1、納骨部2ともに約10kg前後となり、大人一人で持ち運ぶことが可能である。また素材を軽い合成樹脂を使用せずに取って重い石材を使い重厚さを保つことによって、小さいながらも立派なお墓であると認識することができ、大事なお骨を納めることに何ら抵抗を感じないであろう。

【0011】上記の例は日本の伝統的なお墓を模したものであったが、墓碑部1は好みに応じたデザインを用いることができ、例えば図3に示したもののよう洋風のお墓とすることもできる。さらには、いっそう小型化し外観もシンプルなものとすればベットのお墓としても大きな需要が期待できる。

【0012】

【発明の効果】本発明によるお墓型納骨器具は小型化されているので従来のお墓の1/10にも満たない費用でお墓を手に入れることができ、これを自分の家のなかで好きな場所に自由に設置して故人の冥福を祈ることができる。

【0013】また本発明のお墓型納骨器具は、石材を使用し従来のお墓のイメージそのままに小型化したものであるから、大事なお骨を納めるのに抵抗を感じることがなく、長期間に亘って大切に保管することができる。家族のお骨を自身の家の中で保管することは誰に迷惑をかけるものではない。散骨等によって自分の生きた証が全くなくなるよりは、お骨を一部でも残された家族によって守っていくことは大変意義深いことであり、新しいお墓の形態として受け入れられる可能性は大いにあると言

える。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のお墓型納骨器具の実施例を表す斜視図である。

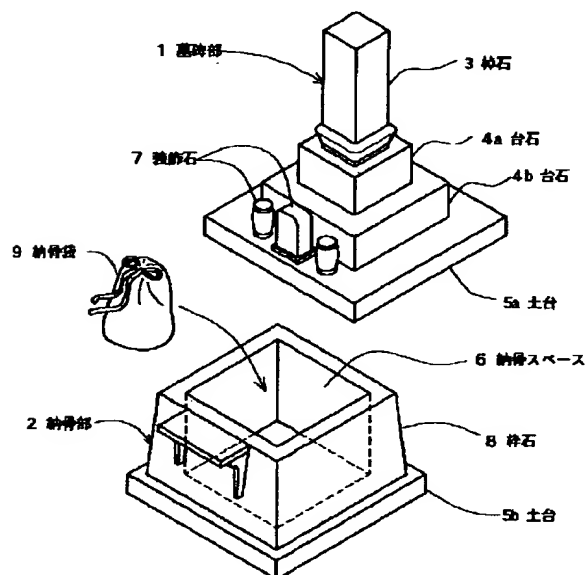
【図2】本発明のお墓型納骨器具の設置例を表す斜視図である。

【図3】本発明のお墓型納骨器具の別の実施例を表す斜視図である。

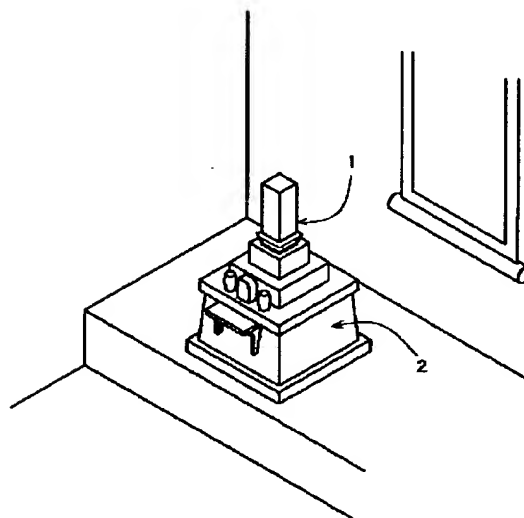
【符号の説明】

- 1 墓碑部
2 納骨部
3 棹石
4a, 4b 台石
5a, 5b 土台
6 納骨スペース

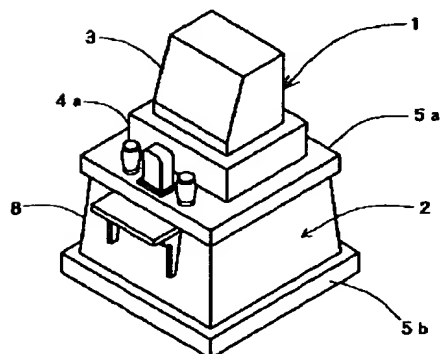
【図1】



【図2】



【図3】



DERWENT-ACC-NO: 2000-583562
DERWENT-WEEK: 200055
COPYRIGHT 1999 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Grave-type ash laying apparatus for e.g. garden,
has tombstone with
pedestal, which is integrated with accommodating portion
having predetermined
space containing remains of dead person

PATENT-ASSIGNEE: SUGIMOTO KOGYOSHO YG[SUGIN]

PRIORITY-DATA: 1999JP-0038915 (February 17, 1999)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE
PAGES	MAIN-IPC	
JP 2000234455	August 29, 2000	N/A
003	E04H 013/00	
A		

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO
APPL-DATE		
JP2000234455A	N/A	1999JP-0038915
February 17, 1999		

INT-CL (IPC): A47G033/00; E04H013/00

ABSTRACTED-PUB-NO: JP2000234455A

BASIC-ABSTRACT: NOVELTY - A tombstone with a pedestal, is
integrated with an
accommodating portion having a predetermined space
containing the remains of a
dead person.

USE - For e.g. garden, house.

ADVANTAGE - Offers lightweight and small portable
grave-type ash laying
apparatus. Can be accommodated in various places to allow
praying over dead
person. Maintains remains of dead person for long period.
Prevents scattering

of dead person's remains.

CHOSEN-DRAWING: Dwg.0/3

TITLE-TERMS:

GRAVE TYPE ASH LAY APPARATUS GARDEN TOMBSTONE PEDESTAL

INTEGRATE ACCOMMODATE

PORTION PREDETERMINED SPACE CONTAIN REMAINING DEAD PERSON

DERWENT-CLASS: P27 Q46

SECONDARY-ACC-NO:

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N2000-432247